

実践マップスキル研究会の取り組み

実践マップスキル研究会 事務局 深瀬浩三

■実践マップスキル研究会とは？

実践マップスキル研究会は、小・中学校の先生方を対象にした「効果的な地図・地理指導法の開発と指導技術の向上を目指す研究会」であり、平成14年に発足しました。

具体的には、夏と冬の年2回の研究会を開催し、地図・地理の実践的な指導法の研究を進めています。昨年7月に開催した第1回の夏季研究会には、40名の定員に対し、全国より100名を超える先生方からの応募がありました。昨年12月に開催した第2回の冬季研究会にも、やはり全国から多くの先生方が参加されました。

当研究会は、従来の研究会のように講演や研究発表を聞くスタイルのものではなく、参加された先生方に実際に作業をしていただいたり、討論していただく、体験型の「アクティビティ」を中心にしています。アクティビティの内容につきましては、後ほど簡単に紹介します。

■なぜ今、マップスキルなのか？

では、なぜこのような研究会を発足させることになったのでしょうか？

それは、基礎・基本の定着がより重視されている新指導要領下の授業の中で、少しでも多くの児童・生徒に地図や地理の見方・考え方や基本的技能（スキル）を身につけてほしいと考えたからにほかなりません。これまで産物地理といわれるような単調な暗記的な学習ではなく、地図・地理的な技能を少しでもわかりやすく、楽しく学んでもらい、地図・地理に興味・関心をもってもらえればと思います（もちろん暗記することも非常にたいせつです。ただし、暗記学習と技能の学習、双方のバランスが重要ではないでしょうか）。

地図や地理に関する技能は、生涯にわたって必要であり、ま

た有用となる技能です。言うまでもありませんが、ドライブや旅行、出張などで知らない町に行くには、やはり地図が必要になります。地図がうまく読めなければ、目的地にたどりつくまでに余計な時間を費やしたり、迷子になることさえあります。

このほかにも地図は、地域のようすを読みとったり、時間距離を類推したり、近道を探し当てることなど、非常に役立つアイテムです。地図活用の能力は、生活のさまざまな場面において生きてはたらく力といえるでしょう。

また、国際理解をしていく上でも、地図・地理的な視点・考え方、技能や知識は、なくてはならないものです。

ますますグローバル化する世界の中で、世界各地域に暮らす人々と共通理解を図り、活動していくには、これらの技能と「異文化を理解しよう」という態度が絶対に必要です（国際理解に必要なスキルは、英語だけではありません。日本には「英語ができれば世界でやっていける」という風潮が強いような印象を受けるのは私だけではないでしょう）。



第1回 夏期研究会のようす

■なぜ大勢の先生方が集まったのか？

第1回の夏季研究会に100名以上もの先生方から参加応募があるとは考えておりませんでしたので、非常に驚きました。正

直なところ「30名も集まれば上出来」と考えておりましたので、望外の結果でした。なぜこれだけの先生方から反応があったのでしょうか。

研究会終了後に参加された先生方に実施したアンケートで、参加動機を問いましたところ、「紹介されていたアクティビティが面白そうで、期待できたから」、「実践的な地図・地理指導について専門的にあつかう研究会がなく画期的に感じたから」、「地図・地理の指導について学ぶ機会が今までなかったので学んでみたかったから」などの動機が挙げられました。

なかでも、学校現場ですぐに実践でき、地図・地理指導に役立つアクティビティに期待された先生が多いようでした。

■アクティビティについて

前にも触れましたが、当研究会の特徴は実践的なアクティビティを中心にすえていることです。

14年度の研究会は、初めての年度ということでもあり、講師の寺本潔先生（愛知教育大学助教授）と田部俊充先生（日本女子大学助教授）に10程度のアクティビティをご紹介いただき、それぞれのスキルについて実践・検討していくというスタイルをとりました。今後はそれらの実践成果も踏まえてアクティビティに磨きをかけ、また、さらに現場の先生方からの提案も含めて研究していきたいと考えています。

では、14年度の夏と冬の研究会で取り組まれたアクティビティについて、簡単に紹介します。

私は何国人？

解答者は、背中に国名の書かれたカードを貼られ、一定の時間内に周囲にいる人に質問を繰り返してヒントを集め、カードに書かれた国名を当てるゲーム。

解答者が自ら質問を出していかなければならないため、ある程度の知識が必要だが、世界の国の名前と位置、おもな特徴など、学習内容を確認するためにも有効なアクティビティ。

もちろん、国を県にかえて取り組むことも可能であり、活用の幅が広い。

小学校段階で、47都道府県の名前と位置を覚えさせる必要が

あるため、適宜学習活動に取り入れていきたいアクティビティである。

ドットマップ作成スキル

地図・地理の教科書にたくさん掲載されている分布図であるが、それを自分たちで作っていくアクティビティ。

自ら分布図を作成するなかで、統計資料の読みとり・活用法や、分布図の意味や読み方、作り方等を身につけることを目標にしている。

また、ドットマップ作成の作業を通して、都道府県の名前と位置を身につけるための、訓練も兼ねることができる。



ドットマップを作成する先生方

夏と冬の研究会では、前記以外にも「誰でも書ける略地図習得術」、「街は生き物？」など、2日間にわたり、約10のアクティビティについて検討していきました。

■第3回夏季研究会のおしらせ

第3回の研究会開催を平成15年の夏（7月下旬）に予定しております。詳細につきましては、4月ごろにご案内する予定です。この記事をお読みいただいて興味をもたれた先生は、ぜひともご応募ください。次年度の研究会にも、たくさんの先生方の参加を期待しています。